

Vol.15

静岡文化情報

街かど

# MACHI-KADO

(財)静岡市文化振興財団

## 伝説の里 西奈

### 歴史・伝説探訪

竜爪山  
隠座頭の鍋  
上前をはねる神  
又右エ門稲荷  
沼の婆さん  
道白和尚

郷倉民族資料館  
利倉神社  
切石と紋石

### 自然散策

梶原山公園  
柴揚げ漁

### スポット

NISHINAAREA

リンク西奈

静岡インターナショナルスクール

### Information

静岡市文化振興財団  
イベント情報

静岡音楽館AOI  
勤労青少年ホーム  
児童会館  
静岡アートギャラリー  
芹沢銈介美術館







隠れ座頭の鉄鍋 (藤巻家蔵)

# 昔、むかし、その昔、 おらんちいのむかしの伝説

## 隠座頭の鍋

●かくれんごのな入

その昔、竜爪街道から水梨橋に通じるあたりは両側から竹藪が迫り、昼でも暗かったため、暗小路とよんでいた。

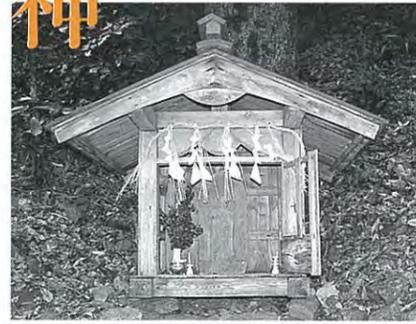
その暗小路の中で夜になるとポクリポクリと米をつく音が聞こえてくる。夜泣きをする子供も「隠座頭の米つく音がするぞ。」と言われると泣き止んだものだ。

ある時、白髪の老人が藤巻という家を訪ねて「私は、この藪に住んでいた隠座頭であるが、この度遠国へ旅立つことになったので、これを預かっていただきたい」と鍋をさしだした。その後老人は遂に訪ねて来ず、米をつく音もしなくなったが、鍋を預かった藤巻家では家運が降昌したという。その鍋は現在も草薙の藤巻家に残っており、隠座頭がいたのは、現リンク西奈のあたりだという。

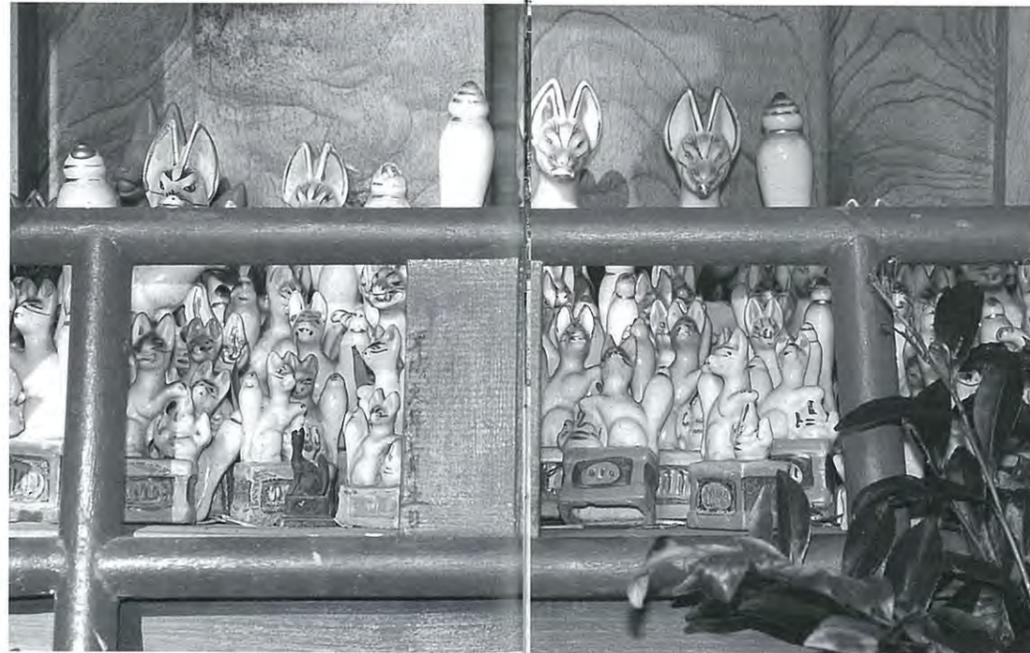
## 上前をはねる神

いつの頃からか時代ははっきりわからないが、北沼上へ出入りする崖下の道で頻々と不思議なことが起こった。

街からの帰り、魚を十匹買って来る。家に帰ると八匹しかない。商いの帰途一円持ってくると八十銭しか残っていない。その道を通ると必ず二割の上前をはねられるが、その理由はまったくわからない。困った村人たちは和尚に頼んでお地藏さまを祀ることにした。すると上前をはねられることはなくなり、村は安堵につつまれた。このお地藏さまは、現在も北沼上の外場山に祀られ、毎年例祭も行われている。



北沼上、外場山に祀られたお地藏さま



## 又右エ門稲荷



長尾部落をたずねて、乳母屋敷のたて道を登ると一軒の百姓家があった。夜になり、その家が団欒を囲むとどこからか一匹の年を経た狐がやってきて、いつしか家族の一人になってしまった。

その頃から家族に次々と病気を患う者が現れ、途方にくれた主が易者を訪ねて占ってもらおうと「お前の家でお稲荷さんが祀ってくれと言っている」と言う。早速、祠をこしらえて祀ると、一家は平穏な日々がおくれるようになった。狐は生き神様だったのである。

さて、このお稲荷様の霊験あらたかなこと、最近でも財布をなくしたご婦人が油揚げをお供えしたところ三日のうちに見つかったというからおどろきである。

お稲荷様は長尾山のふもとに祀られ、毎年3月13日(旧暦の初午)がお祭りだそう。

## 沼の婆さん



諏訪神社

浅畑沼にまつわる有名な伝説である。南北朝時代の初め、南党新田義貞軍に加わった浅畑の土豪岩崎修理之介時光の姉秋野は瀬名の十郎忠本と結婚し、小菊が生まれた。小菊は、新田義貞の弟脇屋義助と親しくなり、小葎を生んだが、産後の肥立ちが悪く亡くなってしまった。小葎は祖母秋野の手で育てられ、やがて美しい娘に成長した。

ある時、秋野が病に倒れ、心優しい小葎は、祖母の病氣快癒祈願のため浅間神社へでかけたが、舟で沼を渡る途中、突然沼に住むカッパが現れて、小葎を水底深く引き入れてしまった。急を聞いた秋野は病の身をおこし、沼のほとりまで走っていき、「憎きカッパを退治して沼の守り神となって村人の難儀を救おう」と念仏を唱え、沼へ身を投げた。

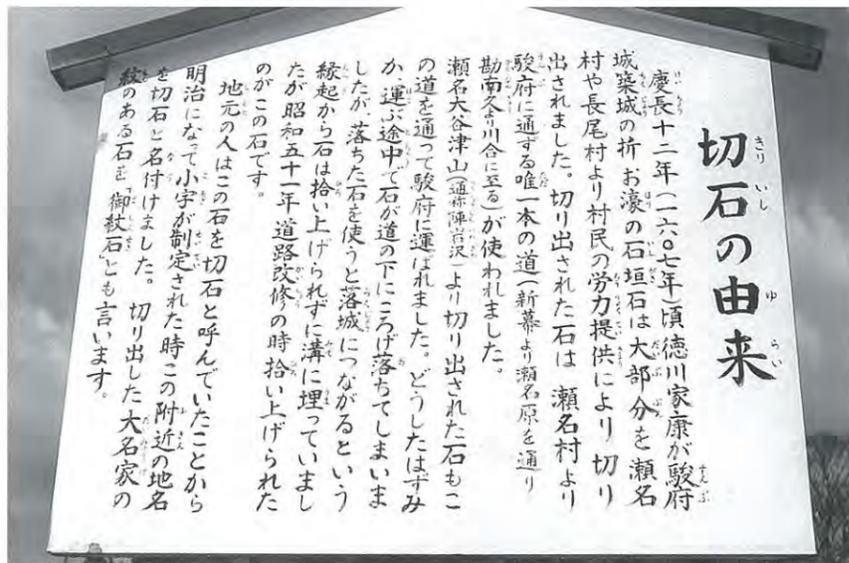
その翌年から沼一面に法器草という草が茂り、その実と根は食料となった。そして、小葎と秋野の霊をなぐさめるために、僧侶たちが読経を始めると、水面は激しく渦巻き、何者かが水中で戦っているようであったが、やがて静かになり、それから後はこの沼でカッパが現れて害をするようなことはなくなった。秋野の霊は「沼の婆さん」として諏訪神社に祀られている。



大安寺 沼の婆さん壁画



諏訪大明神 沼の婆さん像(大安寺蔵)



### 切石の由来

慶長十二年(一六〇七年)頃徳川家康が駿府城築城の折お濠の石垣石は大部分を瀬名村や長尾村より村民の労力提供により切り出されました。切り出された石は瀬名村より駿府に通ずる唯一の道(新幕も瀬名原を通り勘名大谷津山(瀬名原)より)が使われました。この道を通って駿府に運ばれました。どうしたはずみか、運ぶ途中で石が道の下にころけ落ちてしまいましたが、落ちた石を使うと落城につながるという縁起から石は拾い上げられず、溝に埋ってしまいましたが昭和五十一年道路改修の時拾い上げられたのがこの石です。

地元の人はこの石を切石と呼んでいたことから明治になって小字が制定された時この附近の地名を切石と名付けました。切り出した大名家の紋のある石を御杖石とも言います。

## 切石と紋石

慶長12年(1607年)ころ、徳川家康公が駿府城を築城した。その折、石垣石の大部分は瀬名村や長尾村の人々の労力提供により切り出されたものであった。切り出された石は駿府へと運ばれた訳であるが、運搬の途中に道へ落ちてしまったものは、落城につながり縁起が悪いからと、そのまま放置されたものがこの「切石」である。

昭和51年道路改修時に拾い上げられ現在では長尾川の水梨橋の辺りに置かれている。

また、石を切り出すにあたっては、大名家がそれぞれ切り出す地域を決めて作業を行っていた。その縄張りを表すため石に大名家の紋を付けたことから、この紋のある石を「紋石」という。今でも、西奈地区のいろいろな場所でこの紋の入った石を見ることができる。ぜひ、紋石発見のハイキングを計画してみたいかがだろうか。



切石



紋石



紋石「石」島津藩



## 徳川家康公と西奈地区

この切石のほかに、徳川家康公と西奈地区の間わりはあるようだ。

家康公の正室であった築山御前(瀬名姫)はこの地域をまとめていた瀬名氏の三代目氏後の弟氏広と、今川義元の妹との間に生まれた姫君であった。家康公自身もこの西奈地区を気に入り度々狩りに来ていたようである。一般に鷹狩りと言われているが、鮎好きの家康公は川狩りと称して鮎を採りにきていたという説もある。



## 利倉神社

とくらじんじゃ

梶原景時の愛馬に磨墨(するすみ)という馬がいた。この馬は名馬としての誉れが高く、正治2年の梶原景時最期の戦いにおいても寝ず休まずで戦場を駆けめぐり、敵の矢から主人を守った。また、景時が自害を決めるや梶原山頂まで主人を乗せ最後の力を振り絞って駆け上がり自害の際に解き放たれると景時の傍らにうずくまりそのまま動かなくなったという。

この地域の人々はこの話に感銘を受け磨墨の遺品を祀って神とした。馬具のうち、最も主要な鞍は地元の瀬名に渡され鞍大男神(高いところに登っていった鞍の意味)として祀られた。

その後、当て字から利倉神社となったが、今はこの磨墨の鞍は残っていない。

現在は、瀬名の鎮守様として祀られ、例祭は毎年10月に行われている。



## 郷倉

瀬名交番の脇に入ったところに「郷倉」といわれる土蔵がある。郷倉とは、領主に納める年貢米を一旦保管した村共有の倉庫である。ここに保管された年貢米は、領主の命令によって江戸や駿府城下をはじめ村内外の米商人のところへ運び出された。年貢米以外にも麦、粟、稗など飢饉に備えた穀物や貸し付け米も保管されていた。隣にある番屋は、郷倉を守る番人の詰所であり、村の会議所でもあったという。

この郷倉は、木造土蔵造りで外壁は白漆喰仕上げ。天保4年(1833年)に再建された骨組みは当時のまま残っている。市内で江戸時代の郷倉が現存するのは珍しく、昭和47年には、静岡市の文化財にも指定された。現在は、民俗資料館として農具や生活用品を展示している。



道白堂

## 道白和尚

道白和尚は天文年間(1540年頃)に北沼上足沢の奥に住んで、七堂一字を建て、仏道三昧を送った人だが、その奇行でもよく知られている。

中でも不思議なのは、和尚の飼っている一匹の黒い牛の話である。この牛は、和尚の言葉を理解して使いもできた。そして、昼間は用事をし、夜になると山を越え、竜爪山の向側の田野という村の小萩という娘の家の軒先に伏して朝帰ってくる。

ある人がこの牛について和尚に尋ねると「この牛は、生前自分の弟子の祖益という小僧で、才学に秀でていたので自分の跡をつがせよう

目の前に広がるパノラマ。

西は大崩れから東は富士山、箱根、

伊豆半島の山々までが見渡せる。

清水港に浮かぶ

ミニチュアのような船から

遠く汽笛が聞こえてくる。

息を切らして梶原山の頂上に登ると、一気に景色が開ける。そこは別世界。

平成9年4月に、静岡市と清水市のちょうど中間にある梶原山の山頂が公園として整備された。まるで絵や写真を見ているような絶景にことばがない。身近にこんな素晴らしいところがあったのかと、初めて訪れた者は驚きを隠せないであろう。

この梶原山は、梶原景時が自害した山としても有名である。旧名は夕日無山といったが、この事件後いつともなく梶原山と呼ばれるようになった。

梶原景時は源頼朝に従い、壇の浦の合戦では源義経とともに平家を倒した名将である。鎌倉幕府では、侍所所司、既別当などの要職も歴任していた。

ところが、頼朝が亡くなると、御家人と対立して失脚することとなる。

正治2年(1200年)、京都に向かう途中、駿河の入江氏や吉川氏などの地侍と戦って敗れ、この梶原山で自害した。

梶原公園の近くには、自害する前に景時が髪を整えたとされる「鬢水(びんみず)」と呼ばれる泉もある。

梶原景時は人目につかぬ所で静かに死にたいとこの山を最期の場所を選んだ。

彼はこの頂から見渡せる駿河の平野をどんな思いで見つめたのであろうか。

「祇園精舎の鐘の聲。諸行無常の響あり…」平家物語の冒頭の一節が頭に浮かぶ。自分の栄枯盛衰を見つめ、世の中の儚さを思い死んでいった景時。彼は次の辞世の句をしたため、自らの命を絶った。

もののふの  
かくこもかかる時にこそ  
心の知らぬ名のみ  
をしけれ

## 鬢水

●  
びんみず

明治時代頃まで、梶原山の山頂近くにコンコンと清水が湧き出る岩間があった。厳冬でも涸れることがなかったという。

すでに覚悟を決めていた梶原景時はこの岩間に立ち寄り、顔を洗い、髪を洗ってほつれを直した。彼らは最期の身支度をここでを行い、自刃の地である山頂へと向かって行った。

それからこの岩間の水を「鬢洗い水」と呼ぶようになり、今では単に「鬢水」とも言われている。

## 柴揚げ漁



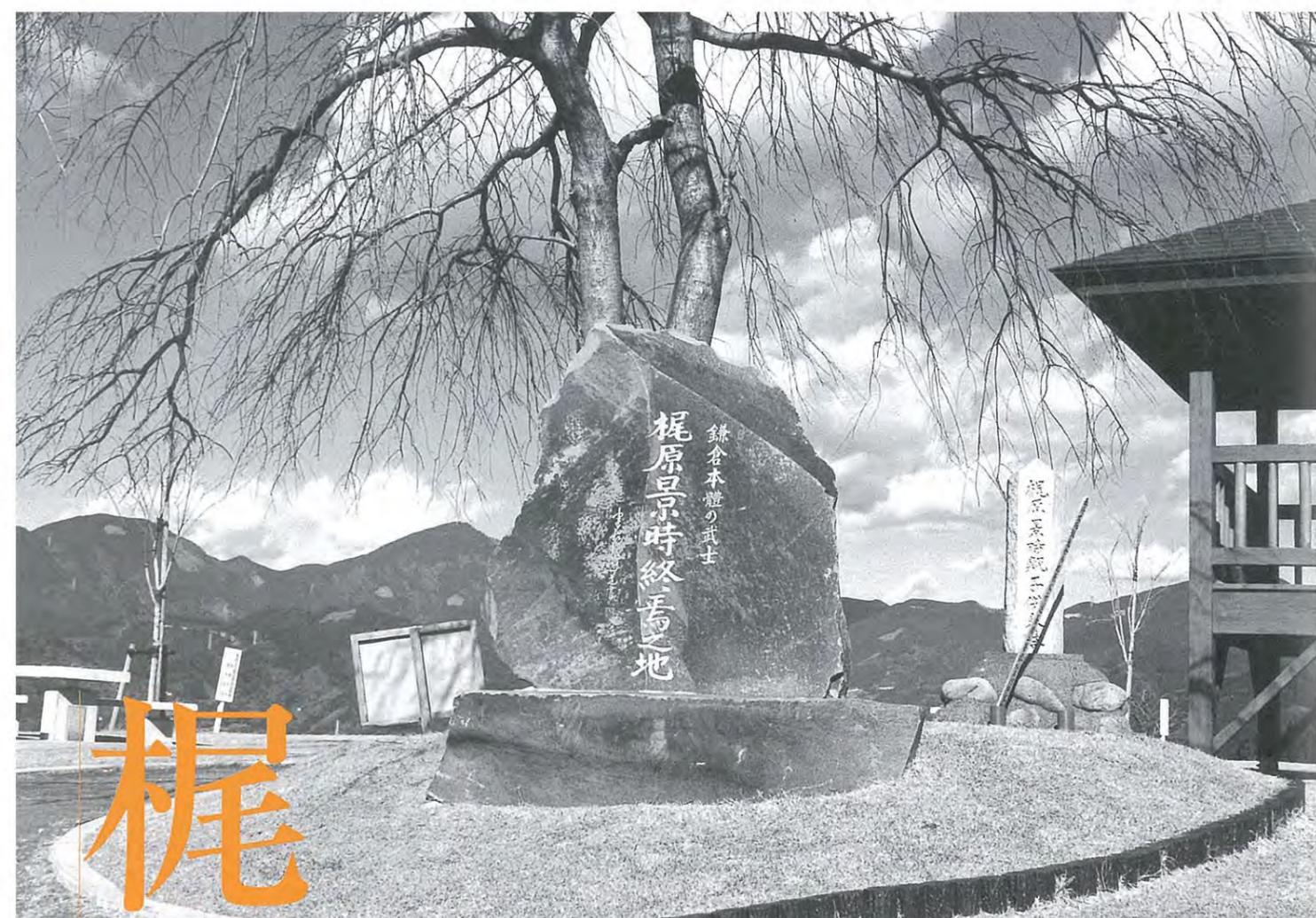
毎年1月、流通センターの横に広がる麻機遊水地では、室町時代から地元で伝わる漁法「柴揚げ漁」が再現されている。

昭和40年代に始まった沼の開発事業でこの漁法は途絶えてしまったが、南沼上の有志「柴揚げ漁保存会」の皆さんによって復活し、今年で22回目を迎えた。

9月中旬に沼の一部を5メートル四方に掘り下げる。深さは男性の胸までもあろうか。そこに柴(小さい雑木)を沈めて「島」を作る。冬になると魚は寒さを避けるためこの「島」に潜り込む。大寒の頃、潜り込んでいた魚を逃がさないよう竹柵で囲み、柴を竹柵の外に出して中にある魚を大きな網ですくい取る。この伝統的な漁法を「柴揚げ漁」という。

かつては日本各地の湖沼で行われていた漁法であるが、近年、社会の変化や開発によってほとんど見るができなくなってしまった。鯉や鮒のほか、最近では雷魚のような外来の魚も捕れるようになったという。すっかり麻機遊水地の冬の風物詩となった「柴揚げ漁」。漁の後に振る舞われるおでん、鮒汁、日本酒も楽しみの一つ。今年は暖冬や工事の影響で柴に魚が集まらず、捕れた量も少なかったが、来年は場所を移し、規模を大きくして行うとのことであった。古人の生活の知恵、良き風俗習慣を後世に伝えていきたいものである。

# 梶原山公園





西奈図書館ボランティア「おはなしはらっぱの会」

# リンク西奈

Linc Nishina

Life (生涯)  
Intelligent (知識)  
Community (和)

平成8年にオープンした「リンク西奈」は、公民館と図書館、市民サービスセンターの複合公共施設だ。

この施設的设计には地元住民も参加した。自然の木立を残し、木陰で読書のできるテラスを造る、バリアフリーデザインの採用、図書館を使いやすい1階にするなど多くのアイデアが採用された。

こうした住民参加型の設計は静岡市でも初めての試みで、市と地元住民が「建設検討懇



読書のできる木陰のテラス

談会」を設け、熱心に話し合った。ともすれば、話がまとまらず、暗礁に乗り上げてしまいそうな住民参加型だが、これが成功した要因は、住民が要望をはっきり持っていたこと、意見を集約する力があったことだ。

こうした住民の熱意と結束力によって生まれた「リンク西奈」は、文字どおりLife(生涯)・Intelligent(知識)・Community(和)、生涯学習、地域活動の拠点としてそこに住む人たちに親しまれている。

## リンク西奈

静岡市瀬名二丁目32-43

静岡市西奈公民館  
☎054-265-2468

静岡市立西奈図書館  
☎054-265-2556

西奈市民サービスコーナー  
☎054-265-2472

# 伝説の里 西奈

# 西奈・わがまち

「リンク西奈」を中心に地域活動のさかんな西奈の街に新しい動きがおきている。

21世紀を目前に、「ふるさと西奈」のきちんとした歴史や文化、民俗等の姿を残しておきたいと「新・西奈誌」の編纂を地元の有志が総力を上げて行っているのだ。

もともと西奈には史跡や古文書が多く残されており、大正2年にも「西奈村誌」が編纂されている。

しかし、新しい西奈誌はその焼直しというわけではない。今までに残されたものを伝えながら先達が発見しえなかったことを探して研究しようと、地元の古老への聞き取りや、神社・仏閣へでかけ苔むした水鉢に掘られた文字を調べるなど熱のこもった調査・研究が行われている。

この作業の中心におられる中川順一郎さんと石脇孝三さんは「今年は、梶原景時が亡くなって800年、庵原郡西奈村が静岡市に合併して半世紀を迎えるなど瀬名にまつわることがかさなっている。この機を得て、先達が書き残してくれたものを次世代に伝えたい。そして、この編纂を通じ、また次の

世に歴史を伝えてくれる後継者を残したい。」と語られた。

正に未来を展望しての地域誌編纂だ。新しい西奈誌は写真を中心にわかりやすく、現代的なデザインで構成され、「西奈・わがまち」と題して2000年の文化の日に発行される。



西奈・わがまち 石脇孝三氏



西奈・わがまち 中川順一郎氏

問い合わせ  
☎054-262-8312 中川順一郎  
☎054-265-2468 リンク西奈

# おはなしはらっぱの会

毎月第4土曜日の2時から、西奈図書館のおはなしコーナーで子どもたちにお話の語りや絵本の読み聞かせをしているグループ「おはなしはらっぱの会」。

毎回子どもたちが集まって熱心に耳をかたむけてくれるのが、何よりうれしい図書館ボランティアのお母さんたちだ。

語りや読み聞かせといっても、子どもたちに楽しんでもらうため、大型紙芝居を使ったり、折り紙を皆で折ったりという工夫を凝らしている。

聞かせる作品もお月見やクリスマスなど季節に合わせて選んだ童話、絵本の他、地元竜爪山の伝説や沼の婆さんの語りをする人もいて、バラエティに富んでいる。

「最近では、テレビなど視覚に訴えるものが多く、言葉によってイメージを広げることが少ないけれど、語りや読み聞かせをして、語る側と聞く側がイメージを共有する瞬間の喜びはなにもものにもかえがたい。」と代表の海野静江さんは言う。「参加してくれるお母さん大募集。」言葉とイメージの世界へ参加してみては？



おはなしはらっぱの会



ハンドベル練習風景



大型紙芝居

問い合わせ ☎054-264-2785  
海野静江



# サンライフ瀬名

「朝夕配達をしながら集めた記事をお伝えする手作りの地域ミニコミ誌・サンライフ瀬名」は新聞を購読しているお客様に感謝を込めて、地域の情報を提供しようと静岡中央新聞販売(株)瀬名支店から月1回発行されている。

編集の支店長川本琢水さんは「発行当初は情報集めにも苦労したが、西奈公民館から情報をもらったり、本当にいろいろな人に支えられてきた」と言う。そして3年目の現在では、さらに強力な助っ人を得て、紙面を充実させた。

県現代俳句協会事務局長の水野政次さんが地域の人の俳句を紹介、批評する「ヒッチ俳句」のコーナーと教員を退職された下岡哲朗さんが毎月テーマを決め、様々な角度から取材した特集記事が、地域のミニコミ誌にとどまらない広がりをもたせ、1面を飾っている。

2面以降は地域の情報や赤ちゃん誕生の記事がつづく。紙面の多彩な情報は瀬名の地域活動の活発さを感じさせ、「サンライフ瀬名」がそのキャッチフレーズのとおり地域の「人と人、人と情報を結ぶ」ことに一役かっていることを示している。

朝夕配達をしながら集めた記事をお伝えする手作りのミニコミ誌。

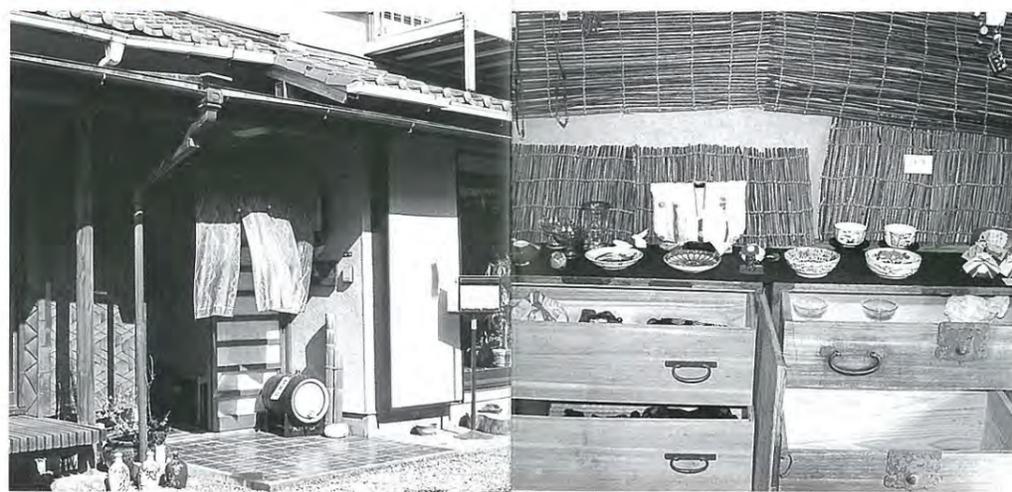


サンライフ瀬名 編集の支店長 川本琢水さん(右) 特集担当 下岡哲朗さん(左)

購読料無料  
申し込み・問い合わせ  
ASA静岡中央新聞販売(株)瀬名支店  
☎0120-70-1331

# 伝説の里 西奈

## 憩いのギャラリー喫茶 つばき



つばきギャラリー

竜爪街道に面した場所にある「憩いのギャラリー喫茶つばき」は、昨年11月下旬にオープンしたばかり。一見、普通の民家のように見える建物の中は、手作りの作品が所狭しと展示されている。

和室には小物類、陶器、骨董品、人形など、オーナーを始め、自分の作品を展示して欲しいという人の品々でいっぱい。手ごろな価格で販売も行っている。自分の作品を発表してみたい方は、ぜひ相談してみたい。

奥の喫茶コーナーでは、庭を眺めながらゆったりとしたひと時を過ごすこともできる。ダイニングテーブルが置かれているだけのシンプルな喫茶室だが、まるで自分の家にいるよう。コーヒー、抹茶、お汁粉のほか、ネギトロ丼やピラフなどの軽食もいただける。

庭には、四季折々の草花が楽しめるようにと、椿、もみじ、山茶花、水仙などが植えられている。一人でくつろぐにも友達と語らうにも丁度心地いい空間だ。

心やすまるひと時をぜひどうぞ…。

静岡市瀬名一丁目19-7  
☎054-261-0157  
営業時間/10:30~18:00 年中無休



インターナショナルスクール 勝又校長を囲んで



授業風景



# 静岡インターナショナルスクール

瀬名は、公立、私立の小・中・高・大学が多く集まる文教の地でもある。

その中に少し趣を違った学校、「静岡インターナショナルスクール」がある。

校長を務める勝俣武先生が、静岡の教育畑を半世紀にわたり歩んだ経験と、多くの外国人が就学を名目に不法就労するバブルの時代を体験し、「目先のお金よりもしっかり勉強して身につけた宝物を持って帰ってもらいたい」という願いを込めて10年前に創った学校である。

アジアの若者が40名程集まる日本語学校で、生徒のレベルに応じた指導がアットホームな雰囲気の中で行われる他、日本文化に触れてもらうための茶道教室も行われ、生徒の人気を集めている。

生徒たちに将来を尋ねると「大学で経済学を勉強したい」「短大へ進んだ後インドネシアの日本の会社に就職したい」など皆ははっきりした目標を持ち、来日して1年程なのに日本語が堪能で日常会話に不自由しない様子には、何年英語を勉強しても一向に話せる気配のない日本人としては恐縮するかぎり…。

瀬名の印象は、皆一様に「近所の人親切」そして「とても静か」と言う。インドネシアから来た女性が「瀬名は静かで勉強に最適、だから日本語検定の合格率も高いよ」と教えてくれた。

20代の生徒たちの表情は年齢よりずっと初々しく、活き活きとしている。皆がそれぞれに勝俣先生のいう宝物もっているようだ。

静岡市瀬名3丁目47-3  
☎054-262-1120

開催日	お問い合わせ先	会場	タイトル
5月28日(日)まで	芹沢銈介美術館	芹沢銈介美術館	芹沢コレクションから「信仰のかたち」— 有料
3月18日(土) 10:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI ほかプレイガイド	コンサートシリーズ2000 チケット販売開始 市民コンサートウィーク2000
3月25日(土)~5月7日(日)	静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー	企画展 「人間国宝シリーズ3 浜田庄司展」— 有料
4月1日(土)~5月31日(水)	文化振興財団	文化振興財団	しずおか市民文芸原稿募集開始
4月7日(金) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	諸田大輔 フルート・リサイタル 1st (全自由 2,000円)
4月14日(金) 9:00~	文化振興財団	文化振興財団 静岡音楽館AOI	第4回 駿府城新能チケット販売開始 (全指定 6,000円/学生席(高校生以下) 2,000円) ■財団の販売については初日のみ、市役所3階に臨時販売所を設けます。
5月9日(火) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	シューマン・ブラームス 四重唱 (全指定 3,500円/大学生以下 2,500円)
5月27日(土) 17:30~	文化振興財団	駿府公園内 特設能舞台	第4回 駿府城新能
5月31日(水) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	渡辺玲子 ヴァイオリン・リサイタル (全指定 3,000円/大学生以下 2,000円)
5月25日(木)~6月4日(日)	静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー	企画展 静岡県教育委員会収蔵品による 「静岡の美」展 — 無料
6月4日(日)	文化振興財団	藁科公民館(予定)	中勤助文学記念館文学講座 — 無料
6月8日(水) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	福田進一・渡辺香津美 ギター・デュオ (全指定 3,500円/大学生以下 2,500円)
6月16日(金) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	野島稔 ピアノ・リサイタル (全指定 3,500円/大学生以下 2,500円)
6月17日(土) 18:30~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	深谷明弘 マンドリン・リサイタル (全自由・前売 2,000円/当日 2,500円)
6月27日(火)~7月23日(日)	静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー	特別展「葵~徳川三代~展」— 有料
7月2日(日) 15:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	能《砧》・狂言《昆布売》 (全指定 5,000円/大学生以下 4,000円)
7月5日(水) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	ブラームスへの憧れ(室内楽の銘品) (全自由 2,500円/大学生以下 1,500円)
7月8日(土) 15:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	ひろばの子ども — 無料/要申込 「子どものための音楽ひろば」から
7月14日(金) 19:00~ 15日(土)	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	林光のオペラ《あまじやくとりのこひめ》《おこんじょうり》 (全自由 3,000円/大学生以下 2,000円)
7月16日(日) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	第5回「静岡の名手たち」 (全自由 1,500円/大学生以下 1,000円)
7月18日(火) 19:00~	静岡音楽館AOI	静岡音楽館AOI	AOI・レジデンス・クワルテット (全指定 3,000円/大学生以下 2,000円)
8月4日(金)~9月17日(日)	静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー	特別展「女王陛下の陶工」 「ジョサイア・ウェッジウッド展」— 有料

お問い合わせ

文化振興財団 静岡音楽館AOI 静岡アートギャラリー 芹沢銈介美術館 勤労青少年ホーム 児童会館  
054-255-4746 054-251-2200 054-289-5400 054-282-5522 054-253-0731 054-252-6161

(財)静岡市文化振興財団事務局と静岡市勤労青少年ホームは4月1日より下記住所へ移転します。

(財)静岡市文化振興財団事務局 〒420-0031 静岡市呉服町二丁目1番地の1 札の辻ビル6階 ☎054(255)4746  
静岡市勤労青少年ホーム 〒420-0885 静岡市大岩町3番25号(元静岡市立看護専門学校 寄宿舎 友樹寮) ☎054(253)0731

音響放送・電気・通信設備工事、修理もお気軽に

Good Sound Everyday  
**松平電気**  
静岡市新通2-1-14  
TEL.054-252-1209



参考資料  
■「梶原景時の生涯ほか」 松尾四郎著 松尾書店  
■「静岡市歴史散歩」 川崎文昭著 静岡新聞社  
■「村と伝説」 中川雄太郎著 水鏡社  
■「町名の由来」 飯塚伝太郎著 長倉智恵雄補筆 静岡新聞社

## From Editor

編集後記

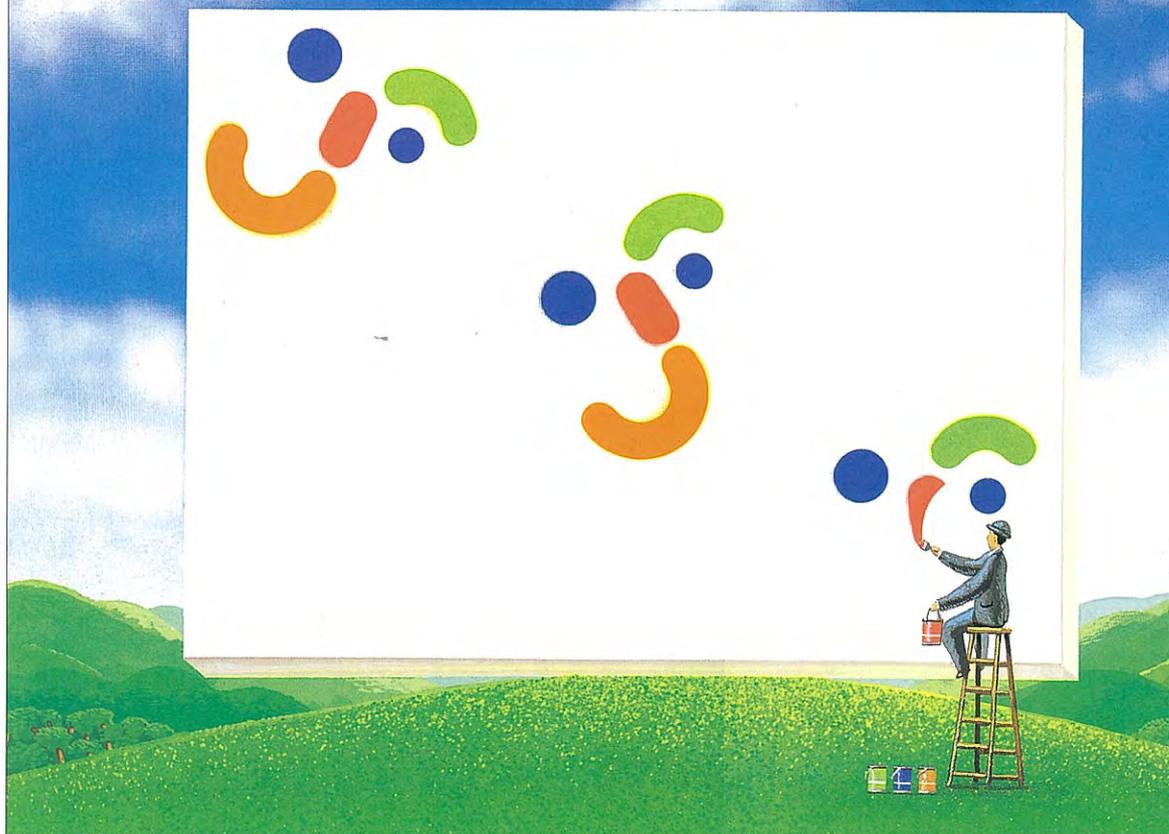
- ◆今まで知らなかった伝説や場所がいっぱい。それらに触れていくにつれ、西奈の歴史の奥深さとそれを受け継いでいこうとする人々の努力が感じられた取材でした。
- ◆西奈地区は地域活動が盛んなところ。いきいきと活動なさっている皆さんのパワーに圧倒されてしまいました。
- ◆皆様がお持ちの情報をもとに取材をしたいと思います。ご意見・ご感想・情報を、ドシドシお寄せください。

### 静岡文化情報「街かど」第15号

●発行(年2回)  
平成12年3月  
●編集・発行  
(財)静岡市文化振興財団  
〒420-8602 静岡市追手町5番1号  
静岡市役所企画部文化振興課内  
TEL・FAX 054-255-4746  
4月から下記に移転します。  
〒420-0031  
静岡市呉服町二丁目1番地の1 札の辻ビル6階

●印刷  
株式会社パビア中央  
静岡市中野新田315番地の2

キレイは地球の笑顔です。



キレイを求める  
キャンパスに、  
大きな笑顔を描きます。

私たちの仕事に  
対する姿勢。  
まじめが、社名です。

目指すのは、  
エコロジカル  
メンテナンス。

**株式会社セリオ**

静岡市追手町9番22号  
(読売ビル4F)  
TEL (054) 253-4105 (代)  
FAX (054) 253-1024

静岡競輪場



**狙え!**

開催日程

**3月**

14(火)・15(水)・16(木)  
18(土)・19(日)・20(祝)

静岡競輪場マスコット  
“ヒメリン”